

令和2年度 修了式 式辞（令和3.3.26）

みなさん、おはようございます。

皆さんは、今日が最後の日だったかと考えたことがありますか

東日本大震災関連でこんな記事と出会いましたので紹介します。

タイトルは、「「ひどいことを…」あの日に戻りたい 亡き妻と娘へ、10年間消えぬ後悔」3/12(金) 西日本新聞 配信記事を紹介～

さて、今日は、令和2年度の大間高校の最後の日です。

これが、最後だったら、家族にそんな言葉を投げかけたでしょうか？最後だったら、友達にそんなことをしたでしょうか？

と考えるときがあってもいいですね。

よく考えたら、毎日が二度と出会うことのない最期の日。もし、今、そう思えたなら、自分に問いかけてみてください。「お前は、それでいいのか？こんな生き方でいいのか？」自分が今、していること、やっていること、考えていることは、「こんなんでいいのか？」

もう一人の自分で、自分のしていることを客観的に見つめてみましょう。

以前、皆さんにお話ししたことをもう一度ここでお願いします。

それは、二学期の終業式にお話ししたことです。

私たち人間は、他人の誤りや過失にはよく気がつくものです。大人であれば職場の同僚、皆さんであれば、友達やクラスメートが何を言ったのか。どれだけ自分に嫌なことを言ってきたのか。どれだけ迷惑をかけたかなど……。他人（ヒト）のことにはとても敏感で、しばしば陰口や不平不満をいいます。

その一方で、自分がやっていること、したこと、言ったことを振り返って、反省することは本当に苦手です。

自分のことを振り返るのが苦手な人は、自分を叱ってくれる、真に大切な友人を寄せ付けようとしません。自分の考えに同調する友人とだけ付き合おうとする傾向がみられます。そうなる、ますます、自分の不満だけが増幅してしまいます。

仏陀（仏教）の言葉を紹介しましたね。覚えていますか？

「他人の過失をみるなかれ。他人のしたこと、しなかったことをみるな。

ただ、ただ、自分のしたこと、しなかったことだけをみよ。」

また、吉野弘という方のある詩のこんな言葉も紹介しました。

～正しいことを言うときは/少しひかえめにする方がいい

正しいことを言うときは/相手を傷つけやすいものだ

気づいているほうがいい～

また、こんな言葉も紹介しましょう。

「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。」精神科医のエリック・バーンの言葉のようです。

さて、この一年間、皆さんは、大変よく努力してここまでできました。コロナ禍で思うように行事などができなくても、知恵を出し、高校生らしくこの一年間を乗り切ってきました。大変立派でした。

昨年の修了式は、放送による集会でしたが、今日は、ここで最後の日を迎えることができました。少しずつですが、世の中も前に進んでいるのだと思います。

令和3年度が皆さんにとって最高の年度となるよう。一年間お話ししてきたことを思い出し、しっかりと頑張ってくれることを希望しています。

皆さんの明るい未来を期待して令和2年度修了の式辞とします。

令和3年3月26日

青森県立大間高等学校

校長 森田 勝博